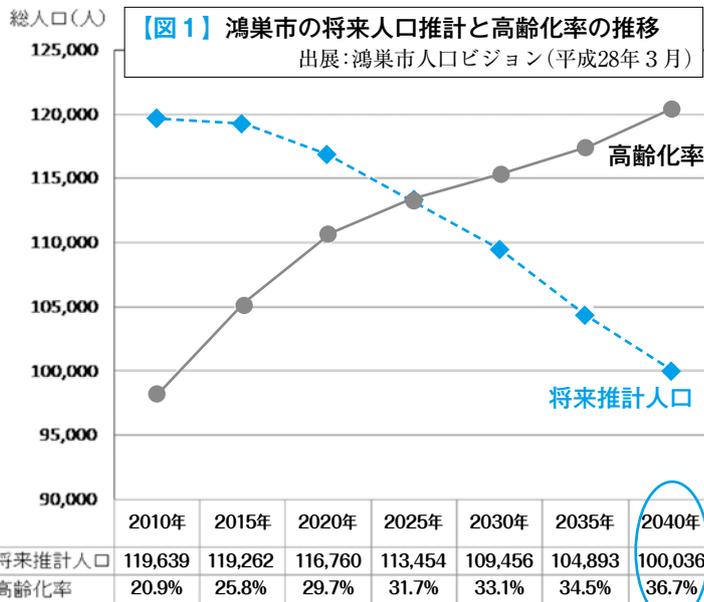


～長期的な視点で考える～ 公共施設等総合管理計画



今回、中央公民館周辺エリアを対象としたワークショップを開催しましたが、市全体の公共施設の現状を踏まえ、長期的な視点で老朽化・施設のあり方の課題に取り組むための基本的方向性を示したものが「公共施設等総合管理計画」です。この計画から一部抜粋し、公共施設に関する課題等をお伝えします。



1 人口構造の変化

今後、鴻巣市でも人口減少・少子高齢化の進展により、人口構造が大きく変わっていくことが予想されています。(図1) 参照)

このことは、人口減による税収減と、社会保障関連経費の増加による歳出増という、厳しい財政予測を示すとともに、公共施設の必要性・役割といった「公共施設のあり方」自体の変化を意味しています。

約20年後の2040年には人口約10万人、高齢化率(65歳以上の割合)36.7%と推計されています。



40年間の推計予算

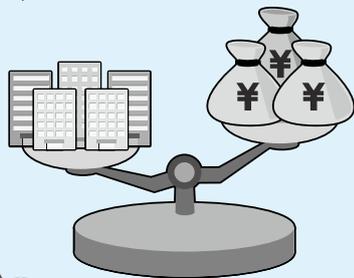
約2,372.3億円

40年間の推計更新費用

約2,912.8億円

不足する費用

= 約540.5億円



不足する更新費用を公共施設全体の床面積に換算すると約6.5万㎡。全体(約35万㎡)の約**18.6%**となります。

今ある施設をすべてそのまま維持するのではなく、将来を見すえた対応が必要だね。

2 限りある財源 総量管理と数値目標

今後40年間における公共施設等の新設や維持管理にかかる推計予算等を算出し、「現実的に保有可能な」公共施設等の総量と、施設床面積の削減目標を試算しています。

3 公共施設のマネジメント 量と質の最適化

総合管理計画では、すべての公共施設の利用状況を「利用者視点」や安全性等「管理者視点」の12項目によって客観的、簡易的に評価しています。その評価結果を4つの分類(継続保全・利用検討・更新検討・用途廃止)に分けることで、市民の皆さんと今後の施設のあり方を検討していくための判断材料として「見える化」しています(この評価結果は機械的な評価によるものであり、決定事項ではありません)。

今後、時代に合った市民ニーズを十分に取り入れながら、施設の複合化なども計画的かつ効果的に行い、全体として施設の総量を減らし、いく必要があります。必要な公共サービスを可能な限り維持しつつ、施設ごとに最大限の効果が発揮できるように「量と質を最適化」し、利用者等の満足度が向上するような公共施設(資産)マネジメントを目指します。

公共施設等総合管理計画は、市ホームページのほか、本庁舎・両支所市政情報コーナー、各図書館・公民館等で閲覧できます。

